

学校評価について

(1) 令和6年度学校評価

本年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率No.1の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度No.1の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
式典行事と防災 (総務部)	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	式典・集会を円滑に実施する。
	・防災意識の向上	(2)防災意識を高めるための工夫	迅速な安否確認方法の定着と、地域と協働した防災の実践をする。
	・同窓会活動の推進	(3)同窓会活動の充実	本校創立50周年に向けて、同窓会と十分な連携を図る。
学習指導 (教務部)	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICTを効果的に用いた学習の実施	課題等でのスタディサプリの積極的な活用を図る。 1人1台配備された生徒用タブレットの効果的な活用を図る。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	「総合的な探究の時間」を通して、地域とともにある学校づくりを実現する。
生活指導 (生徒指導部)	・基本的な生活習慣の確立と社会性を育む生徒指導	(1)生活リズムの確立	安易な欠席・遅刻を減少させる。
		(2)「講話」「各教室」等の充実	自ら規範意識や危機管理能力が高揚できるようにする。
		(3)生徒アンケートの活用	アンケート結果をもとに、生徒とのコミュニケーションを図る。
		(4)いじめ防止対策	未然防止対策について、学校内の連携と外部との連携を組織的に行う。
進路指導 (進路指導部)	・多様化する入試に対応する適切な進路指導	(1)学力向上を目指すための継続的なシステムの構築	外部模試をより一層有効に活用する方法を探る。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	それぞれの学年に応じた課題を見据え、生徒が主体的に関われる活動を工夫する。
		(3)夏季休業中の保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	事前指導・事後指導の充実を図る。
生徒会及び部活動 (特別活動部)	・生徒の手による学校づくりの推進	(1)学校祭の充実	学校祭の質的充実、取組内容の洗練化を進める。
		(2)生徒の手による部活動環境の向上	生徒が部室環境、練習設備、練習道具などを大切にしよう、一斉整備日などを設ける。
		(3)生徒による情報発信の推進	学校PRの場で生徒が多くのことを発信し、本校の魅力を伝える。
保健・環境美化 (保健厚生部)	・教育相談活動の推進	(1)教育相談活動の充実	教育相談係・SC・学年会との連携の強化と相談室利用の活性化を図る。
	・健康管理活動の充実	(2)保健調査、健康観察の有効活用	生徒の心身の健康問題への配慮と健康観察実施の徹底、保健指導の充実を図る。
	・学校環境の点検と整備	(3)清掃点検、安全点検の徹底と保健美化委員の活動の活性化	各点検の実施と充実した保健美化委員活動を通して、学校全体の環境整備に対する意識向上を図る。
勤務時間の適正管理と教職員の健康障害防止 (安全衛生委員会)	・勤務時間の適正管理	(1)在校時間等の状況記録の集計結果の確認と分析	在校時間等の状況記録の結果を確認し、業務の適正化を図る。
	・教職員の健康障害防止	(2)教職員のストレスチェックの結果の確認と分析	定時退校日・学校閉庁日を効果的に設定する。 衛生管理医と連携し、教職員の健康状態を把握する。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	<p>ア 教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。</p> <p>イ 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。</p> <p>ウ 学習活動の充実を図り、生徒が目標とする進路実現につなげることができたか。</p> <p>エ ワークライフバランスに配慮し、明るく活力に満ちた協力的な職場環境を維持することができたか。</p>
--------------------	---

(2) 令和5年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率No.1の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度No.1の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。 ・学校生活におけるワクワクな学びをとおして、学びの充実と進路実現を目指す。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
式典行事と防災(総務部)	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	コロナ前の形に順調に戻りつつある。
	・防災意識の向上	(2)防災意識を高めるための工夫	全校生徒の安否確認の方法において、ロイロノートを効果的に活用することができた。
	・同窓会活動の推進	(3)同窓会活動の充実	昨年度復活させた総会も2年目となり、軌道に乗りつつある。今後は、学校創立50周年に向けて、更に同窓会との連携を密にしていきたい。
学習指導(教務部)	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICTを効果的に用いた学習の実施	「総合的な探究の時間」を中心として、各教科でICTを活用する場面も見られたが、積極的な活用までには至らなかった。スタディサプリについては、3年生が講座視聴、1・2年生では課題配信等で積極的な活用ができた。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	1年生は津島市と愛知大学と協働し、「津島の魅力PRデザイン開発プロジェクト」を実践した。今年度も地域と連携して充実した活動を展開することができた。
生活指導(生徒指導部)	・基本的な生活習慣の確立と社会性を育む生徒指導	(1)生活リズムの確立	昨年度より遅刻総数が増加し、一部の生徒の遅刻数が多くなっている。
		(2)「講話」「各教室」等の充実	外部機関等による講話、各教室については充実させることができたが、生徒の規範意識の向上までにはつながらなかった。
		(3)生徒アンケートの活用	アンケートの結果を生徒の指導に活用することができた。
		(4)学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止対策への取組	生活アンケートの結果をもとに、校内組織内での連携は図れた。外部機関と連携を図るような事案はなかった。
進路指導(進路指導部)	・教員数、生徒数の変化に対応する適切な進路指導	(1)学力向上を目指すための継続的なシステムの構築	習熟度や進路に可能な限り対応した個別最適な学びの環境を構築した。また、自学自習の環境作りも学力向上に寄与した。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	3年間の見通しを立てた学びの時間がうまく機能してきている。
		(3)夏季休業中の高大連携や保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	高大連携や保育・看護実習への参加人数は多いとは言えず、さらなる呼びかけや好奇心をくすぐるような仕掛けを模索する必要がある。

生徒会及び 部活動 (特別活動部)	・生徒の手による学 校づくりの推進	(1)学校祭のさらなる質的向 上	昨年の反省を踏まえ、おもてなし部門の充実や取り組み内容が 洗練されてきている。
		(2)生徒の手による部活動環 境の向上	部活動単位での環境整備などに任せてしまったため、部活動で 差が見られた。全体で日程を定める必要があると感じた。
		(3)生徒による情報発信の推 進	中学生体験入学や合同説明会などの場で生徒の生の声を届ける ことができた。
保健・環境美化 (保健厚生部)	・教育相談活動の推 進	(1)教育相談活動の充実	お昼の相談室開放など、教育相談活動が活発になり、早期に対 応できることが増えた。
	・健康管理活動の充 実	(2)保健調査、健康観察の有 効活用	保健調査の結果を相互共有できたが、健康観察の把握ができて いないクラスもあった。
	・学校環境の点検と 整備	(3)清掃点検、安全点検の徹 底と保健美化委員の活動 の活性化	安全点検などをペーパーレス化した結果、スムーズに実践でき た反面、保健美化委員の活動が減少した。
勤務時間の適 正管理と教職 員の健康障害 防止 (安全衛生委員会)	・勤務時間の適正管 理 ・教職員の健康障害 防止	(1)在校時間等の状況記録の 集計結果の確認と分析	在校時間等の状況記録を集計分析したところ、数人の教職員に おいて複数月の80時間超が確認できた。次年度に向けて業務の 分散化・効率化を図り在校時間縮減に取り組みたい。
		(2)教職員のストレスチェッ クの結果の確認と分析	本年度のストレスチェックの結果は、良好であった。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に伴う新教育課程も2年目に入り、様々な教育活動、学習指導を実践した。各学年で「総合的な探究の時間」の充実を図り、第1学年では、津島市と愛知大学と協働の「津島の魅力PRデザイン開発プロジェクト」を実践するなど、生徒の思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成を目指した。 ・中学生体験入学や中学生向け公開文化祭の運営参加、蛭間小学校での学習支援ボランティア、神守コミュニティ主催のラジオ体操やいきいきウォーキングの運営補助の参加、津島市ライオンズクラブ献血活動への参加など、多くの場面で地域連携を図ることで、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成した。 ・尾西地区特別支援教育コーディネーター研修会主管校(2年目)として、各校教員とともに特別支援教育及び教育相談に関する研修を行い、教員個々の資質向上を図ることができた。 ・生徒対象の「生徒アンケート」を実施し、生徒が抱える悩みや問題の把握に努めている。また、教員対象のいじめ防止対策「取組評価アンケート」を実施し、教員自身にも人権意識に関する自己点検を図っている。アンケート結果からは、いじめを許さない人権意識の校風が維持されている。 ・高大連携事業や保育・看護実習に加え、国立大学教員の講演会によって生徒の進路意識を向上させた。 ・ICT支援員によるICT研修(現職研修)を実施し、教員のICT活用技術の向上を図った。 ・意欲的に業務にあたる教職員が多い。残念ながら昨年度に続き、月当たりの時間外勤務が80時間超となる教職員をゼロにすることはできなかった。週休日の部活動指導時間が影響している。 		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<p>ア 教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。</p> <p>イ 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。</p> <p>ウ 学習活動の充実を図り、生徒が目標とする進路実現につなげることができたか。</p> <p>エ ワークライフバランスに配慮し、明るく活気に満ちた協力的な職場環境を維持することができたか。</p>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学や学校説明会、地域のイベントや学習支援等のボランティア活動は高く評価されている。在校生が直接中学生へ語りかけることは、魅力発信、入学者募集につながる。 ・定員割れをし、生徒の学力層も広がっているため、個別対応の充実に伴う教員負担の増大を感じる。時間外勤務を縮減できない現状について、現場の苦勞を感じる。 ・第1学年の「津島の魅力PRデザイン開発プロジェクト」の実践のように、地域や大学、同窓生の人材を活用した探究的な学びの充実が求められる。

今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中の授業と連動させ、1・2年次は思考力・対話力・協働する力を養う授業実践が必要である。
<p style="text-align: center;">その他</p> (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・津島市の大学生学習支援ボランティアに本校卒業生で教員志望者がおり、「東高で良かった」の声を聞く。地域貢献が鍵である。 ・授業中の換気等の感染症対策の徹底、能登半島地震に鑑み、防災対策も必要である。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員5名、PTA副会長2名 ・評価時期・・・令和6年1月30日(火)